教育者研究会 第50回記念「道徳教育シンポジウム東京大会」開催

これからの日本の道徳教育

～誇りある日本人を育てるために～

公益財団法人モラロジー研究所が半世紀にわたって取り組んできた「教育者研究会」(延べ16万人が参加)が第50回を迎えたのを記念し、11月30日、「道徳教育シンポジウム東京大会」が東京都千代田区の大手町サンケイプラザで開かれた。会場に詰めかけた参加者は、基調講演やパネルディスカッションに熱心に耳を傾け、道徳教育の在り方や教育者が何をなすべきかについて考えを深めた。

パネリスト

高崎経済大学教授／日本教育再生機構理事長
八木 秀次 氏

株式会社ジャーマン・インターナショナル代表
ルース・ジャーマン・白石 氏

東京都教育研究連盟会長／荒川区立南千住第二中学校長
齊藤 進 氏

麗澤大学学長／光り輝く「教育立県ちば」懇話会座長
中山 理 氏

コーディネーター

モラロジー研究所 道徳科学研究センター長
大野 正英 氏

齊藤 進氏

八木 秀次氏

パネルディスカッション

道徳の時代、いま教育者は何をすべきか

パネルディスカッションでは、教育や子どもたちの現状を踏まえたうえで、これからの道徳教育の在り方と、教育者や大人がどう行動すべきかについて活発な討論がなされた。

東京都荒川区立南千住第二中学校の齊藤進校長は、同校で取り組んでいる「レスキュー部」と「南千住検定」の2つを紹介。レスキュー部は、災害時などに中学生が地域の人たちを支援する役目を担うもので、しかも、普段は目立たない子どもも目を輝かせているなど、生徒に活躍の場を与えていると解説した。さらに、生徒の心を磨くことに主眼を置いて指導を行っており、南千住検定も、自分の地域や学校に誇りを持ち、それが国に誇りを持つことにもつながるのではないかとして、教師は授業以外の学校行事にも、道徳性を見いだして指導すべきだと述べた。

ジャーマン・インターナショナル代表で、『日本人が世界に誇れる33のこと』という著書もあるルース・ジャーマン・白石氏は、感謝の気持ちを言葉にする習慣など日本人の美徳を称賛。今の日本の子どもたちが大人になるころには、どの企業でもチームには外国人がいるのではと話し、そういう場では、道徳というものが共通言語になると述べた。また、経営者の視点から、小さなことでも良いところを見いだすことが社員の成長につながるとして、学校においても道徳的実践ができている子どもに対して「とても良かったですよ」と言葉にしてあげることが大事だと提言した。

麗澤大学の中山理学長は、同学で道徳科学という授業を設け、学問的に道徳・倫理を学ぶために大学生や高校生用の道徳教科書も作っていることを紹介。日本の道徳教育は、知的な理解と感情的な理解で終わってしまい、どう行動すべきかまで導いていない現状を指摘した。そのうえで、ロールモデルの存在が重要であるとして、教師がその意識を持つことが大事だと提言。自らが学問の喜びや教育の喜びを体験して、子どもたちを導く思いを感情的にも行動的にも見せなければならないと述べた。

八木秀次氏は、明治時代に新渡戸稲造が『武士道』という著書によって、日本人が道徳性の高い国民であることを世界に発信した事例を紹介し、発信力の重要性を強調した。また、ゆとり教育についても触れて、学力と同様に道徳教育も重視されなかったと解説。教科化された道徳教育においては、教えることの感動が教師から児童・生徒に伝わり、教師が変わり、子どもたちが変わり、そして社会が良くなって国全体が活力を取り戻せるよう期待を述べ、教育者にはその重要な仕事をしている自覚を持ってほしいと呼び掛けた。

コーディネーターを務めたモラロジー研究所道徳科学研究センター長の大野正英氏は、教育再生、日本再生のためには、教員も含めすべての大人が教育者であり、ロールモデルになっていかなければならないと提言。その中心となっていく学校を、社会全体で応援していく必要があると締めくくり、会場の大きな共感を得て討論を終えた。

熱心な討論で会場を沸かせたパネルディスカッション

大野 正英氏

ルース・ジャーマン・白石氏

中山 理氏

主催者・来賓 挨拶

道徳教育の再生に向けて

モラロジー研究所 廣池 幹堂 理事長

下村 博文 文部科学大臣

主催者であるモラロジー研究所の廣池幹堂理事長は、現在、学校崩壊やいじめなどの問題が顕在化していることに言及。道徳教育による日本人の心の再生が不可欠であり、子どもたちが日本に生まれて良かったと思える国づくりが大人の責任だと呼び掛けた。

来賓の下村博文・文部科学大臣は、安倍内閣が教育再生を最重要課題として、道徳教育の教科化に積極的に取り組んでいることを紹介。道徳は世界に誇る日本の文化そのものであり、道徳教育は世界に対する貢献だと今後への決意を示した。

基調講演

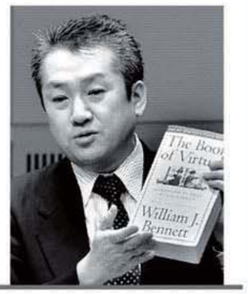
これからの日本の道徳教育 ― 誇りある日本人を育てる ―

高崎経済大学教授　日本教育再生機構理事長　**八木 秀次** 氏

八木秀次氏は、現在の、衰退しているといわれる日本が今後成長していくためには、一人ひとりの資質が問われると問題を提起。日本の子どもたちがグローバル化する世界で勝ち上がっていくためには、道徳教育を機能させることによって、個々の能力を高めることが必要だと説いた。

そのうえで、勝ち上がるということは、利益の独占ではなく、他の国の人たちにも幸福を提供していくことだと指摘。そのためにも、道徳教育を教科化することが必要であり、多くの国民が学校で教えてくれることを望んでいると強調し、子どもたちが何も学ばないまま大人になってしまわないよう、良い価値は押しつけることも必要だと述べた。

最後に八木氏は、教科化によって、やっと道徳の時代が来た実感があると期待を表明。世界の人々から日本という国があって良かったと思われ、世界をリードしていく国になれるよう、道徳教育を充実させていきたいと述べ、大きな拍手のなか講演を締めくくった。



〈企画・制作〉 産経新聞社営業局 広告